

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年4月1日	布施高等女学校開校
22年4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更

健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止

23年 3月31日 健康栄養学科生活福祉専攻廃止

23年 4月 1日 東大阪大学こども学部アジアこども学科開設

28年 4月 1日 東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を
実践保育学科に名称変更

2) 設置する学校・学部・学科 (平成28年度)

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科
アジアこども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科
実践保育学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科 (全日制課程)
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科 (全日制課程)
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

3) 当該学校・学部・学科の学生数 (平成28年5月1日現在)

学校名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	256
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	51
	実践保育学科	124
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	853
東大阪大学柏原高等学校	普通科	771
東大阪大学附属幼稚園		256
合計		2,311

4) 役員・教職員等の概要 (平成28年5月1日現在)

- (1) 役員 理事 7人
監事 2人
- (2) 評議員 15人
- (3) 教職員 343人

	教員		職員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	9	10	19
東大阪大学	24	28	17	10	79
東大阪大学短期大学部	27	20	17	6	70
東大阪大学敬愛高等学校	47	14	6	0	67
東大阪大学柏原高等学校	55	12	10	6	83
東大阪大学附属幼稚園	17	0	6	2	25
合計	170	74	65	34	343

2 平成28年度事業計画における進捗状況等

1. 教科指導と基礎学力の向上

- (1) 平成27年度に引き続き、授業力の向上とわかる授業、興味関心を引き出す授業の創造について教員間の研究のため、11月上旬に、全教科の公開授業(8教科8名)及び授業の公開(全教員)を実施した。3年目となり定着した感はある。空き時間を利用しての参観のため厳しい面もあるが、参観する教員数も増加している。授業内容において生徒の主体的な活動を促す工夫、機器を使用し、授業展開等、工夫している授業があったことは一つの成果であった。
- (2) 基礎学力の向上は本校生徒にとって重要な課題である。数学、英語、情報科の授業等で習熟度別授業、少人数指導等、きめの細かな授業の推進に努めた。また、放課後の補習、基礎力診断テストの分析、各種検定試験へのチャレンジなど工夫ある授業、取り組みを展開できた。
- (3) 平成26年度から実施の選択科目(学校設定科目)について、第2学年からの2年間で専門的なことが学べる4系列(調理、公務員、アニメ・イラスト、簿記)に加え、新たに4系列を設定し、個別に開設していた講座の整理を行った。講師を専門学校や関連機関からの招聘や専門学校で学ぶ等、外部機関との連携を深め、より専門的な学習を実施する事ができた。その結果、当初4系列での受講生のうち半数を超える生徒が学んだことを活かす進路を選択した。
今年度は、年間のまとめとして選択科目の最終日に、各系列より学んだことの報告会を開催した。好評であり生徒も真剣に聞いていた。また、系列の選択に当たっては予備調査をし、それを基に生徒との面談を通して各自の系列を決定した。
- (4) 昨年に引き続き、授業参観を実施したが、昨年度の保護者からの要望もあり、5月と11月の2回開催した。5月は1年生の保護者の参観が多いように感じた。

2. 生活指導の徹底と生徒支援・相談活動の充実

- (1) 中途退学、進路変更、不登校生徒の減少に向け、担任による家庭訪問を積極的にきめ細かく実施した。また、教育相談員、臨床心理士、NPO法人等を活用して、生徒相談室には月曜から金曜までの授業時間帯に常時在室を実現し、教育相談活動の充実に努めた。臨床心理士への相談は生徒18件、保護者17件、教員20件、その他5件、計44件で、前年度(97件)と比較すると半減した。授業日の土曜に臨床心理士を配置していることが、相談件数の落ち込みの一因ではないかと思われる。なお、内容は学習や学校生活に関する事、家庭の問題に関する事等が主であった。
- (2) 凡事徹底をめざし、全教職員が同じ目線で生徒指導にあたることで効果を上げている。
学園の統一目標である挨拶の徹底について、生徒へのアンケート調査(2月実施)で、下記の結果となった。
問「あなたはあいさつができていますか」
第1学年 91.1% 第2学年 87.7% 平均 90.0%
問「あなたは、学校全体としてあいさつができていますか」
第1学年 77.7% 第2学年 67.0% 平均 72.8%
「殆どの生徒はあいさつをしていると思っているが、3割近くのものはそのように感じていない」との結果である。あいさつの仕方は個人によって相違があるが、定着しつつあるように感じる。
- (3) 時として生起する生徒の問題行動には毅然とした態度で接し、保護者への働きかけ等により理解を引き出し、協力して取り組むことができた。補導案件には、教育的配慮もふまえながら慎重に対処し、生徒の立ち直りの機会を奪うことがないよう配慮した。
- (5) 生徒指導対応上、必要に応じて補導センター、子ども家庭センターなど外部の専門機関との連携を図り、中途退学の防止に効果があった。
- (6) 生徒会活動については、生徒会新聞の発行や「毎朝のあいさつ運動」や「熊本地震募金活動」等、自主的な取り組みが新しく実施し、継続して取り組まれる等、活動が充実しつつある。柏高祭でも、

生徒のやる気、自主性が見られる場面も増大している。

3. 進路指導の充実と進学実績の向上

- (1) 進学実績を高めるために、第2・3学年の総合的な学習の時間（進路研究）を活用し、進路指導の時間を定期的に設定した。放課後「進学ゼミ」の開講も実施し学力向上に努めた。
- (2) 就職率100%を維持するために、就職希望生徒の勤労観・職業観を育成する取り組みを数多く設定したが、新たに柏原市産業振興課との連携事業で「ものづくり企業見学バスツアー」が実施され、20名の第2学年の生徒が参加した。また、大阪府から派遣されたキャリアコーディネーターを有効活用している。
- (3) 昨年度に引き続き、公務員試験に1名合格者を出すことができた。（自衛官）
- (4) 選択科目で各種資格を取得するための講座を開講し、「英検」「漢検」「数検」等の資格取得、また、ビジネス実践系列受講者から、全商簿記1級合格者が出る等、資格取得の推進に貢献している。
- (5) 進路指導もメンタル面のフォローが必要な生徒が増えてきており、生徒支援カード活用にあたっての共通理解とルール作りが急がれる。

《平成28年度進路状況》

就 職		進 学			そ の 他		
学校就職	公務員	縁故自 営	大 学	短期大 学	専門学 校	進学準 備	その他
53	1	7	120	6	76	6	6

*主な就職先 ⇒トヨタ自動車、トヨタカローラ南海、近畿日本鉄道、新日鐵住金、十川ゴム、サカイ引越センター、日本郵便、西日本高速道路株式会社他

*主な進学先 ⇒近畿大学、日本大学、日本体育大学、立教大学、立命館大学、京都産業大学、摂南大学、追手門学院大学、東大阪大学、大阪学院大学、大阪芸術大学 他

4. 生徒募集のための広報活動の強化

- (1) 学校説明会では、在校生徒の活躍の場を多く設定し、本校のイメージ改善につながるように努めた。また、新聞・テレビ等マスコミの取材も複数回あり、部活動だけでなく教育活動（選択科目）の紹介に力を入れた。三省堂の教科書に選択調理の写真が掲載されることにもなったが、十分浸透しきれず、平成29年度入学者は226（留学生6名含む）で、前年度より42名減となった。

《入学者数の推移》

H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
252	254	283	315	330	230	268	226

- (2) 専願生の中で、キャリアアップ生の減少が大きい反面、アシスト生は微増傾向となっている。また、コースの特色としての選択科目の系列化の推進や文化活動の強化による本校のイメージ改善をし、専願生の確保を目指したい。また、これまで受験した実績のない未受験地域からの受験があり、継続的な受験してもらえる働きかけが必要と考える。

- (3) 従来から実施している、学校での体験学習、出前授業、駅構内の掲示板の有効活用、地元行事への積極的参加等、渉外担当や関係教員並びに部活生の活動により地元住民、近隣中学校との連携が深まっている。昨年度、地元柏原市教育委員会と連携協定を締結し、具体的な連携協定の動きは次年度からになる。

5. 教職員の資質向上

- (1) 教職員の授業力向上のため、各教科会議等での教材研究、各教科1本の公開授業を実施するとともに授業公開期間を設け自由に授業の参観ができるようにした。工夫ある授業を展開している教員がいたことは、授業改善の良い材料になると期待したい。
- (2) 研修は、新任教員研修（年間随時）、生徒指導研修、私学人研への参加、保護者対応の研修会等、従来から実施しているものに加え、入試広報部、サポート部、外部研修会受講者による伝達研修、また、教員への小論文指導に関する研修会等を実施し、教職員の指導力アップ、資質向上に効果を上げた。

6. 各コースの取り組みから

(1) アドバンストコース

在籍生徒の学力向上、進学実績の向上に努めた。3年生では、なるべく指定校推薦に頼らず、一般試験やAO入試、留学生入試などへも挑戦させ、立命館大学、立教大学、電気通信大学、京都産業大学、追手門学院大学、大阪音楽大学等への合格を果たした。昨年に引き続き、留学生の進学実績が良く、全体の底上げにつながっている。

(2) キャリアアップコース

学習意欲の向上や自己肯定感の育成を求め、選択科目に8つの系列に再編し、2年間（11単位）を系列に関係する専門的な学習を、外部講師を含め専門の先生に指導いただけるよう進めた。調理やアニメ、簿記等、意欲的に学習する場面が見られた。学んだことを活かし進路を決定している生徒も多数いた。簿記については簿記検定受験者もあり、全商簿記1級、2級、3級の合格者が出ている。次年度にむけ、系列の拡大と選択「キャリア」での基礎的学力の向上を課題とした。

(3) キャリアアシストコース

本コース設置3年目、中学時代に不登校、または不登校気味であった生徒、コミュニケーションの苦手な生徒、いじめを受けていた生徒等が33名入学し2学級編成とした。

今年度アシストコースの1期生が卒業した。内訳は、大学(短大含む)進学者が8名、専門学校2名学校紹介の就職8名、支援訓練機関1名となっている。中でも、近畿大学短期大学部(公募推薦/商経科)、近畿日本鉄道、日本郵便に各1名合格及び採用されたことは、今後のコース生の励みになると思われる。

また、柏高祭での舞台発表や学校説明会でのボランティアとして参加する等、積極性が随所に見られ、彼らの成長に大きく役立っている。

(4) スポーツコース

強化部・準強化部に在籍する生徒のコースとして、文武両道、競技実績の向上を目指して連日・連夜、ほとんど休みのない状況の中で活動を展開した。進学面では、今年度も日本体育大学、日本大学、近畿大学、京都産業大学等の有名大学に進学したのをはじめ、就職面でもトヨタ自動車、新日鐵住金などの有名企業に就職することができた。競技実績でも日本拳法部が春の選抜の団体及び個人で全国制覇を果たしたのをはじめ、バドミント部、空手道部、陸上競技部などもよい成績を残すことができた。

また、クラブを中心に本年度もボランティア活動を積極的に行った。特に、サッカー部、柔道部、空手道部、陸上競技部、日本拳法部等、校内清掃活動や地域啓発活動、地域行事への参加な

どが活発に実践された。これらのボランティア活動を見た地域の方から、励ましの手紙とともに敬愛館火災の見舞金をいただいた。このことは、本校生徒たちの励みになると思う。

3 財務の概要

別添 平成28年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照